

支援プログラム公表用

5領域全てにおいて、通常の療育および専門的支援の実施療育において、独自の療育専用動画を使います。（YouTube で公開）

専用動画を導入する事で、療育者からの必要な働きかけ（指示）といった、療育者による誤差を減らせて、療育者は人物育成ファイルメソッドの人物解析による、個々の特性に沿った専門的な関わり方（教え方）に集中して指導ができる事で、より短いスパンで効果の高い成長の促しを行います。

人物育成ファイルメソッドに準じた、40カリキュラム（別紙参照）のペアレントとレーニングの個別講座を保護者の方々に行います。これにより、卒所後も生涯に渡って使える個々に特化した子育て方法を教えています。

（健康・生活）

児童の健康の確認を行うとともに、体調不良などの意思の表出が難しい方は、表情や普段と違う様子を確認しながら、健康管理を行います。

個々の能力だけではなく、心理や発達段階も考慮することで、ストレスの少ない成長を促します。

発達の段階と成長の指針は、発達検査で使われるV i n e l a n d - IIに準じています。

（運動・感覚）

幼児体操や音楽療法を取り入れることで、音楽やリズムに合わせた運動によって楽しく感覚の統合が出来るよう支援します。

常勤作業療法士により、常時プログラムの見直し、実施を行います。

視覚・聴覚・味覚・嗅覚・触覚の5感覚以外にも、前提覚（バランス感覚）や固有受容覚も含めた7つの感覚を統合します。

4スタンス理論を取り入れ、各タイプの特性に沿った身体の使い方の向上、成長を促します。

重症心身障害児には静的弛緩誘導法を取り入れて、身体的機能の向上を促します。

発達の段階と成長の指針は、発達検査で使われるV i n e l a n d - IIに準じています。

（認知・行動）

認知も含めた視野の10段階を考慮し、認知行動療法を取り入れながら、基本的な認知・行動力を高めます。

人物育成ファイルメソッドの人物解析により、個々の詳細な特性に配慮し、特性に沿った成長を促します。

関わり方から知らず知らずのうちに誤学習させて、認知を歪ませない19項目を意識する事で、正しい認知行動へと導きます。

発達の段階と成長の指針は、発達検査で使われるV i n e l a n d - IIに準じています。

（言語・コミュニケーション）

心理や発達段階を尊重しながら、発語や会話を目指しつつも、絵カード・手サインなどの非言語コミュニケーションの導入も行います。

人物育成ファイルメソッドの人物解析により、個々の詳細な特性に配慮し、特性に沿った成長を促します。

言葉を伸ばすために必要な16項目を1つ1つクリアする事で、コミュニケーション力を高めます。

発達の段階と成長の指針は、発達検査で使われるV i n e l a n d - IIに準じています。

言葉に接する事による、心理的影響はかなり高いため、詳細かつ具体的な言葉の使い方を説明し、実施しています。

（人間関係・社会性）

個々の遊びから集団遊びへ。心理や発達段階を尊重しながら、集団や個の活動を促していきます。

集団に合わせるための必要な12項目の1つ1つをクリアする事で、根本的な集団力を高めます。

人物育成ファイルメソッドの人物解析により、個々の詳細な特性に配慮し、特性に沿った成長を促します。

発達の段階と成長の指針は、発達検査で使われるV i n e l a n d - IIに準じています。

直接支援以外では、兄弟姉妹児の発達や子育ての相談にも対応し、園や学校との情報共有の連携や先生等への専門的研修も行っています。